

A Study of Sentence Fragments: Direct Generation in Parallel Architecture

永次, 健人

<https://hdl.handle.net/2324/2235996>

出版情報 : Kyushu University, 2018, 博士 (文学), 課程博士

バージョン :

権利関係 : Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (3)

氏 名	永次 健人			
論 文 名	A Study of Sentence Fragments: Direct Generation in Parallel Architecture (文断片の研究：三部門並列モデルにおける直接生成)			
論文調査委員	主 査	九州大学	教授	西岡 宣明
	副 査	九州大学	教授	大橋 浩
	副 査	九州大学	教授	久保 智之
	副 査	九州大学	名誉教授	稲田 俊明

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本論文は、一つの単語や句により構成されながら文に相当する解釈を持つ、省略の一種である文断片を生成文法の音韻部門、統語部門、意味部門の三部門並列モデルに基づき考察したものである。現行の生成文法では、省略表現一般に対して、完全な文の一部を削除することで派生されるという統語論を中心とした見方が主流であるが、本論文の分析は、それを反証し、抽象的な文構造を持たず、発音されるままの形で生成されるとする直接生成分析を支持し、個々の現象に関して独自の具体的な分析を提案して、その妥当性を理論的かつ経験的に実証したものである。

第1章では本論文の概要と意義を述べた。第2章では、削除分析と直接生成分析を概説し、削除分析の一般的な想定が省略現象一般および文断片において成り立たないことを示した。また、従来の直接生成分析の代表的な研究を取り上げ、それらの限界を指摘した。第3章では、先行研究で削除分析の経験的証拠として挙げられてきた事実を批判的に検討し、直接生成分析を支持する経験的な議論を行った。具体的には、文断片における格現象、英語の再帰形の認可、否定極性/一致表現の認可、島の制約、終助詞、WH 疑問文解釈について、直接生成分析の立場から分析を与えた。第4章では、Jackendoff (1983, 2002 他) の三部門並列モデルにおける省略現象への一般的アプローチを提示し、その下で文断片の意味解釈と文法現象が説明されることを示した。初めに、三部門並列モデルを概説した後、このモデルに基づく Culicover and Jackendoff (2005) の省略現象へのアプローチを導入し、その欠点を指摘した。その上で、三部門並列モデルに基づく新しい枠組みを提示して、この枠組みの下で第3章で扱った経験的事実を分析し直した。第5章は議論を総括した。

本論文の最大の特徴と利点は、最先端の理論的分析を注意深く吟味した上で、直感的に妥当に思えるが、理論的に十分な分析がなされてこなかった直接生成分析を理論的、経験的側面の両方から実証的に支持し、最適のモデルを提案し、文法理論の枠組みそのものに対する大きな提案を行った点にある。その論考は、従来の研究の問題点を克服し、文断片とそれ以外の様々な文法現象に潜むメカニズムを明らかにしたものであり、今後の省略現象研究の方向性を示したのみならず、英語だけでなく日本語、韓国語、トルコ語、ドイツ語、フランス語からの新たなデータを提示し、通言語的側面からの分析の妥当性を示した点においても今後の生成文法における理論研究に大きな貢献をするものと評価できる。

以上のことから、本調査委員会は、本論文の提出者が博士（文学）の学位を授与されるに相応しいと認めるものである。